

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-471
研究課題名	成人先天性心疾患患者における再開心術の周術期管理
研究期間	西暦 2014 年 1 月（倫理委員会承認後）～2017 年 3 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録）
上記材料の採取期間	西暦 2006 年 1 月～2013 年 11 月
意義、目的	<p>本邦では先天性心疾患は年間 1 万人余りが出生し、医療の発達により 90%の 9000 人以上が成人することが可能となった。現在 40 万人以上の成人先天性心疾患患者が存在し、今後も増加し続けると予想される。</p> <p>心内修復術を施行した先天性心疾患患者では成人期にさまざまな遺残症、続発症、後遺症により再開心術が必要になることが多い。その周術期管理で問題となるのが、1) 既存の心疾患や心内修復術の影響による左心不全、右心不全、不整脈など循環器系合併症、2) 心機能低下や輸血、薬剤による肝障害、5) 肺高血圧、3) 初回心内修復術の影響による脳神経系後遺障害、4) 挿管管理による反回神経麻痺などの呼吸器合併症、5) 高血圧や糖尿病といった成人独特の合併症等である。</p> <p>成人先天性心疾患患者における遠隔期合併症に関して様々な知見が重ねられているが、再開心術における周術期管理について述べたものは少ない。そこで当院でも増加しつつある成人先天性心疾患患者における再開心術の周術期管理の問題点とその対策を検討することとした。</p>
方法	<p>成人先天性心疾患において 2006 年 1 月から 2013 年 11 月再開心術を受けた症例の診療録を後ろ向きに調査する。検討項目は 1)患者背景、2)心機能（心エコー、心カテーテル、心 MRI、心 CT）、3)肝機能（腹エコー、腹 CT、採血データ）4)脳神経合併症や呼吸器合併症、5)麻酔法、6)術式、手術時間、人工心肺時間、出血量、7)周術期合併症、8)術後集中治療経過等とする。統計学的には JMP Pro9 を使用し、t 検定、χ^2 二乗検定を行う。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	<p>麻酔科学周術期医学分野 山内正憲 麻酔科医局 022-717-7321</p>